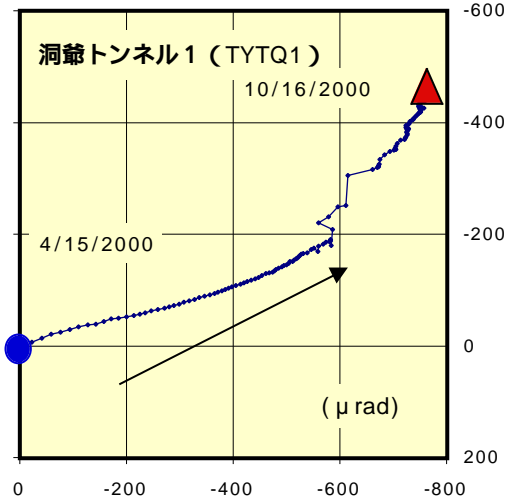
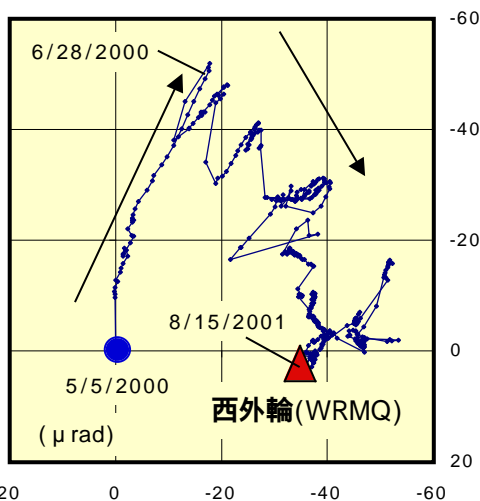
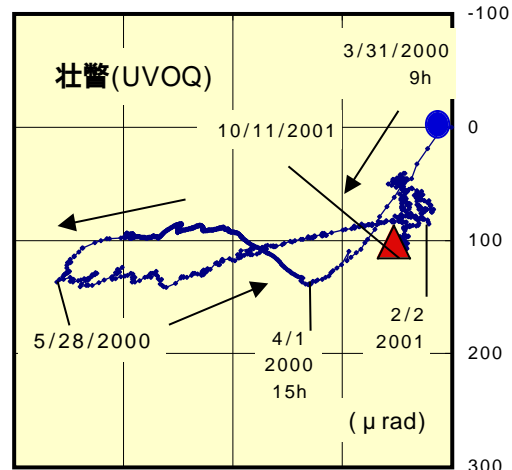
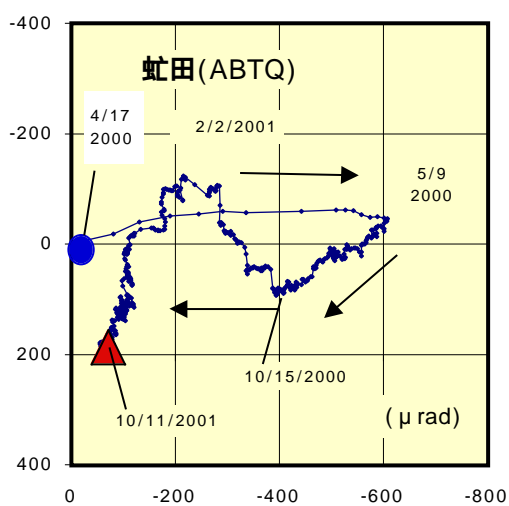
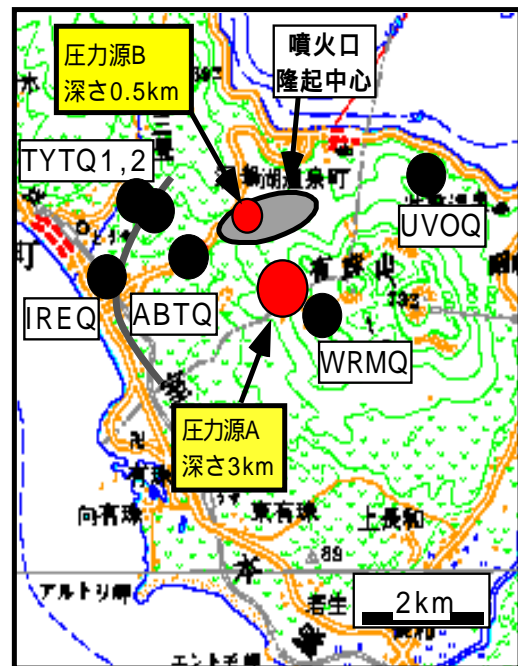


九州大学地震火山観測センターは東大震研・北大有珠火山観測所と共同で有珠山の周辺に気泡型傾斜計を設置し観測を続けている。

有珠火山観測所(UVOQ)では2000年3月31日9時から観測が開始され、170 μ radian/dayという急激な南西隆起の変動が観測されたのち、西側隆起に変わった。その他の地殻変動データも考慮することにより、2つの圧力源が推定された。圧力源Aは微小地震の震源空白域近傍である。

それぞれの傾斜観測点は2000年5～6月にかけて反転を開始し、圧力源が収縮する方向に沈降を続けていたが、2001年2月には、ほぼその動きを止めた。

その後の傾斜変化の多くは、気温の年周変化に因るものであると推測される。



傾斜ベクトル図 (隆起方向)

:観測開始 :最新データ